

## 1 単元名 ティーボール

## 2 運動の特性 (機能的特性)

2つのチームが攻撃と守備を交代で行い、ティーに乗せたボールを打ち、ベースを回って得点をあげたり、相手の得点を防いだりして勝敗を競い合うことが楽しい運動である。

## 3 児童の実態 (学習の準備状況)

～省略～

## 4 実態の考察

## (1) 運動の楽しさの体験状況について

本学級の児童は、体育学習に積極的に取り組んでいる。しかし、運動そのものが嫌いで普段から体を動かす習慣のない児童も数名いる。休み時間や学級レクではドッジボールなど、ボールを用いた遊びをすることが多く、ボール運動に対する関心が高い。ただし、中にはボールが怖かったり、ルールを守らなかったりする児童がいるなどこれまでの日常的な運動経験などからボール運動への意欲がもてない児童もいる。

実態調査では、簡易化されたティーボールのゲームを行った。ティーボールのゲームで楽しいと感じた瞬間は「ボールを遠くにとばせたとき (12)」「決まった場所にボールを投げられたとき (8)」「ボールが捕れたとき (7)」であり、「打つ」「投げる」「捕る」の三つの要素にそれぞれ楽しさを見いだしている。また、楽しくないと感じた瞬間は「バットにボールが当たらないとき (15)」「思ったところに投げられなかったとき (7)」「速いボールがとんできたとき (5)」とこれもまた、大きく分けて三要素であった。

## (2) 運動の楽しさを求める学び方の習得状況について

5年生までの体育学習では、課題解決型学習を中心に進めてきており、その学習形態についての知識はおおよそ身に付いていると言え、体育ノートを使った学習を全学年で進めてきた成果である。しかし、6名がめあてを立てることが難しいと回答していることから、この6名の児童には、自分のめあてをもって学習に取り組むことができるように、個別に声をかけたり、体育ノートに目を通したりしながら支援していく。

ティーボールの学習で大切な点として、学級の半数の児童が「チームでの協力」を挙げている。今までの経験からチームで運動を行う際に協力することの大切さを学んでいる。

しかし、アンケートの中で「ルールを守らない人」がいることで、運動に対する意欲の低下を招いている児童がいることもわかった。主運動の楽しさに迫り着く前に「ずる」する人がいたり、得意な人だけが活躍してしまったりしていることが考えられる。

## (3) 運動の楽しさを味わうための技能の習得状況について

本学級の児童は、3年時にティーボールを経験しているが、打撃や送球、捕球の習得状況はそれぞれ技能が低く、また、技能差はかなり大きい。

ティーボールの学習を通して、「ボールを少しでも遠くへ打ったり、投げたりしたい (12)」「打つ・投げるのが上手になっている (8)」と技能面での願いをもっている児童が多いことも分かった。

5 研究の視点と学習の手立て

(1) 市教研体育部の研究主題

生涯にわたって健康を保持増進し、運動に親しむ子どもを育てる体育学習

(2) 研究の視点と手立て

**視点1 課題を見付け解決できる学習過程の工夫と指導内容の明確化**

<手立て>

○ティーボールの基本的な技能向上を図る主運動につながる運動の設定

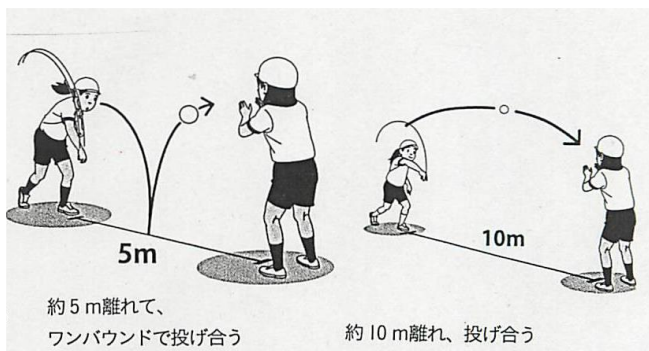
ティーボールに必要な技能が全体的に低いことから、「打つ、捕る、投げる」ことに十分な時間をとることが必要であることが分かった。中でも打つ技能の向上をしたいと考えている児童が多い。そして、ティーボールの試合では、点を取るためには打つことが必要であることから、「打つ」技能の向上を図るホームランタイムを設定する。単元を通して、打つ楽しさを十分に味わわせた。

「ホームランタイム」を十分にとることで「打つ」技能が向上し、試合で点をたくさん取れるようになるだろう。反対に守っている側は、たくさん点を入れられてしまうと意欲低下、チームの士気の下降を招いてしまうことが予想される。大量失点を防ぐためには、飛んできたボールを捕ったり、捕球したボールを投げたりする技能も必要である。そこで、「捕る」「投げる」力を向上させるために、パートナーキャッチボールを行う。パートナーキャッチボールは、苦手な児童でも進んで行えるようにクラス一斉に行う。近い距離からゆっくり投げられたボールを両手でキャッチする動きや転がってきたボールの捕球、少しずつ2人もしくは3人の距離を離してワンバウンド捕球、ノーバウンド捕球などたくさんのバリエーションを含んだキャッチボールをする。教師が見回りながら捕るためのポイントを伝え、「捕る」技能の向上を図る。

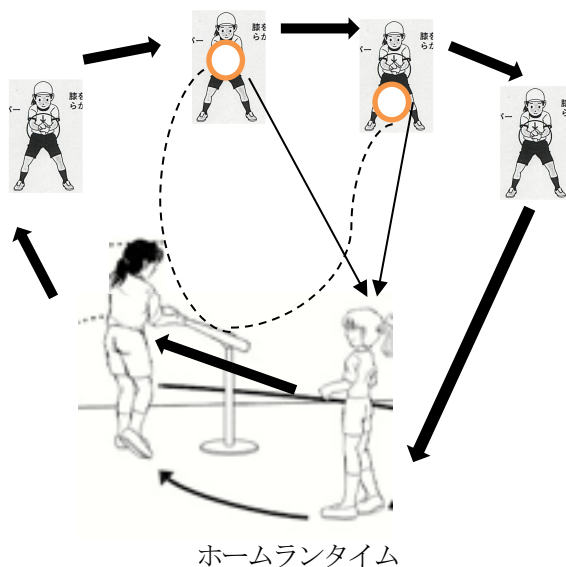
狙ったところに「投げる」ためには、正しいフォームで投げるのが大切だが、実態調査から投げる手と反対の足を出して、勢いよく投げている児童が少ないことが分かった。正しいフォームを知らない児童が多いことから、オリエンテーションではNHK for Schoolに掲載されている「はりきり体育ノ介、ボール運動～ボール投げに挑戦だ！～」を視聴し、正しい投げ方をイメージさせる。さらに、そのイメージした投げ方を実際に自分の体で行う「とんくる体操」を準備体操として取り入れ、正しいフォームの定着をねらう。



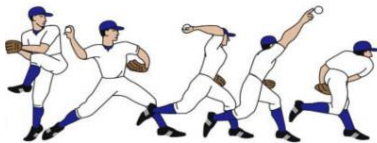
とんくる体操



パートナーキャッチボール



ホームランタイム

つながる運動	身に付けさせたい力	行い方
ホームランタイム	◎打つ 腰を回転させて、強く振り切る	①「打ちます」と声をかけて打つ ②打ったボールを捕り、バッター横にいる次打者に向かって投げる ③捕ったボールをティーにセットし、十分に離れて待つ
パートナーキャッチボール	◎捕る ボールに対し真正面に入り、足を肩幅より広げて捕る	○約5m離れたところから始め、1歩ずつ離れていく ①ゆっくり転がして捕る ②ワンバウンドさせて捕る ③ノーバウンドで捕る
とんくる体操	◎投げる 正しいフォーム（※）を目指す ※投げる方向に対し、体は90° 顔は真正面を向く 投げる腕と反対の足を前に踏み出し、肘は肩よりも上げる	○準備体操を行った後、全員で3回ほど繰り返して行う 

## 視点2 さらに運動が楽しくなるかわり合いの工夫（人、ものとのかわり合い）

<手立て>

### ○ルールや用具の工夫

試合の中で、特に「投げる」技能を高めるために、アウト板を用いて打者をアウトにするルールを採用する。キャッチに比べ、アウト板に当てる方がキャッチミスへの不安が軽減され、より思い切り投げることができ、投げる技能の向上につながると考えられる。

### 【基本のルール】

- ・表、裏の攻防2回で終了 ・全員に打順が回ったら攻撃終了
- ・1チーム5、6人（打撃は人数の多いチームに、守備は人数を少ないチームに合わせる）
- ・ファールゾーンに打球が落ちた場合、打ち直す
- ・守備側がアウト板にボールを当てたら、打者はアウトになる。
- ・フライアウトなし
- ・セルフジャッジ制

### 【攻撃】

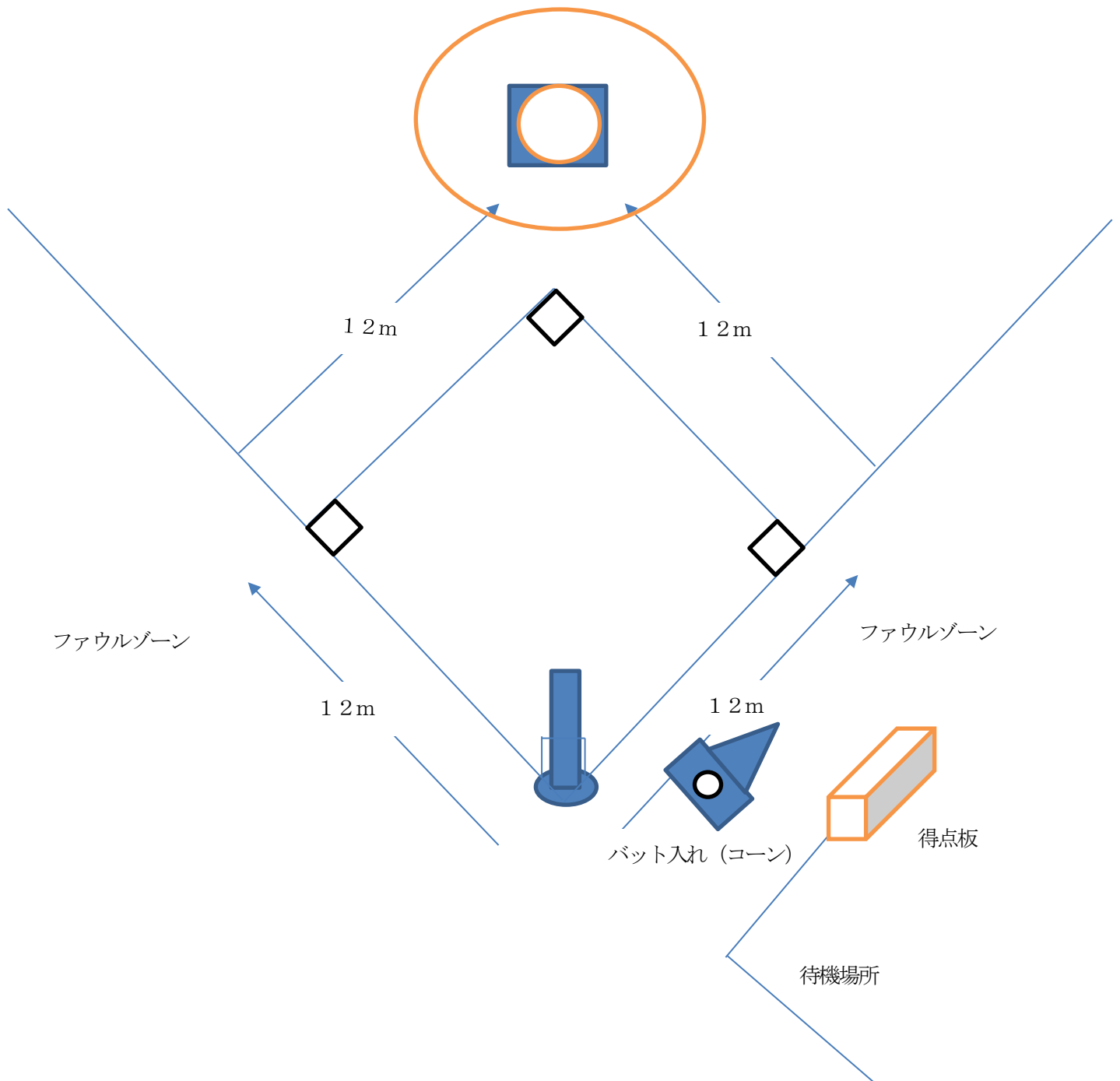
- ・一塁側に置いてあるコーンにバットを入れたらプラス1点。（バット得点）
- ・ボールを打ったら走者となり、塁を踏むごとに1点。（最大4点）アウトになる前までに踏んだ塁の数が得点となる。
- ・打ったら走り、アウト板に当てるまで走り続ける。もし、アウト板に当たらなかった場合、次の塁を狙って走り出してもよい。

### 【守備】

- ・ボールをキャッチした人は、アウト板を持つ人のところに投げる。
- ・アウト板を持つ人は、投げられたボールをアウト板で当てる。
- ・アウト板に当たった時点で、塁に到達してなかったらアウト、塁に到達していたら、セーフ。
- ・同時、もしくは曖昧な場合は当事者（走者、アウト板を持つ人）でじゃんけんをしてジャッジする。

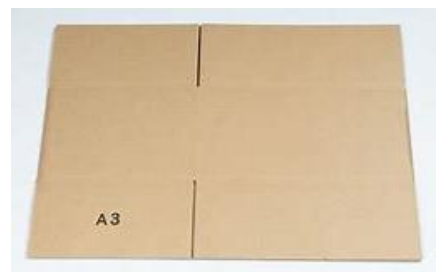
・場について

セカンドベース後方に、直径約2mの円をラインで作成し、その中にアウト板を一つ置く。打者が打つ前にはサークルの外にポジショニングし、打球が打たれたら、守備側の一人がアウトサークルの中でアウト板を持つ。一塁線、三塁線、ベース、アウトサークル、待機場所は白線を引く。



### ・アウト板

アウトのタイミングに困らないようにするには、音が大きく鳴る必要がある。A3サイズの段ボールの周りと折れ曲がる部分をガムテープで補強し、強度を上げ、音が鳴りやすいようにした。



### ・ボール

投げる力、捕る力に特に重点を置くため、ボールに対する恐怖心を取り除き、ボールを上手に扱う楽しさを味わわせたい。そのため、5年生が扱いやすい大きさ柔らかさに準じている12インチのボールを使う。



○打つ楽しさを十分に味わわせるために、バット、ティーを選択できるようにする。自分の扱いやすい用具を選択することで、より「打つ」楽しさが増し、技能の向上も望めるだろうと考えた。

### ・バット

重さ、長さの異なる2種類のバットを用意し、扱いやすい方を選択させる。



68 cm 410 g



74 cm 470 g

### ・ティー

コーンの上にペットボトルを乗せた簡易的なティーをチームで一つ用意する。

自分の身長に合わせ、腰の高さにボールが来るようにペットボトルを上から重ねられるように調節し、打ちやすい高さを見つけさせたい。



チームでおおよその高さを調整し、身長によって調整できるようにペットボトルを5 cm、10 cm、15 cmのものを用意した

### ○作戦タイムの確保

ティーボールの試合では、勝つために点数をとることが必要であり、またその逆に点数を防ぐことができれば勝ちに近づくことができる。試合を重ねることで、どの児童が遠くにボールを上手に打ったり、飛ばしたりすることが分かってくる。そこで、単元後半（なか②）では、相手チームの特徴に合わせて、守備位置を変えたり、自分の役割をチームボードを使って確認したりする時間（作戦タイム）を確保する。チーム内での話し合う時間を試合前や試合の間に確保することで、次の試合に向けた作戦の修正を行ったり、同じチーム内での教え合いや学び合いの時間に充てたりすることができると思う。また、チームでの話し合いを経て、自分の守備位置に自信をもったり、苦手な児童でも試合に参加しているという所属感を味わわせたりしたい。

## 6 単元の目標

- (1) ティーボールの行い方を理解するとともに、ボールを打つ攻撃と隊形をとった守備によって、簡易化されたゲームをすることができる。 (知識及び技能)
- (2) ルールを選択したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 (思考力, 判断力, 表現力等)
- (3) ティーボールに積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動したり、仲間の考えや取り組みを認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができる。 (学びに向かう力, 人間性等)


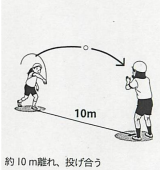





## 7 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準	次の運動の行い方を理解しているとともに、その技能を身に付け、簡易化されたゲームをしている。 ・ベースボール型では、ボールを打つ攻撃と隊形をとった守備によって、簡易化されたゲームをしている。	ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりしているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	運動に積極的に取り組もうとし、ルールを守り助け合って運動をしようとしていたり、勝敗を受け入れようとしていたり、仲間の考えや取組を認めようとしていたり、場や用具の安全に気を配ったりしている。
学習活動に即した評価規準	① ティーボールの行い方を理解している。 ② フェアグラウンド内にボールを打ち、得点をすることができる。 ③ 捕る、投げるなどのボール操作をして、得点を与えないようにすることができる。	① 相手やチームの特徴に応じた作戦を考えている。 ② 攻撃や守備の作戦について、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 ③ 相手チームの特徴に応じた守備の隊形をとろうとしている。	① ティーボールの試合や練習に積極的に取り組もうとしている。 ② ルールやマナーを守り、仲間と助け合おうとしている。 ③ 勝敗を受け入れようとしたり、仲間の考えや取組を認めようとしたりしている。 ④ 場や用具の安全に気を付けている。

## 8 学習の道すじと評価計画

	1	2	3	4	5 (本時)	6
学習のねらい	学習のすすめ方を知り、見通しをもつ	つながる運動で行ったことを生かし、得点できるように攻撃したり、得点させたりしないように守備をして楽しむ		チームの特徴に応じた作戦を考え、守備位置や役割を決め、試合を楽しむ		
0	オリエンテーション ・学習内容の確認 ・場や用具の準備や片付けの仕方 ・安全について ・試しの試合	つ な が る 運 動				
45		簡単なルールで ティーボールを楽しむ		チームで作戦を立てて ティーボールを楽しむ		
知・技			①		②	③
思・判・表				①	②	③
態度	①④	②	③			

9 指導計画

	学習内容と活動	教師の指導・支援○・評価◇																				
はじめ	<p>1 オリエンテーションをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のねらいや道すじを理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</li> <li>○みんなで楽しめるティーボールの行い方を考え、マナーや約束について話し合う。</li> <li>○用具の使い方、場の準備や片付けの仕方、安全について理解する。</li> <li>○投げ方や捕り方、打ち方の基本動作を知り、ホームランタイムの行い方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・とんくる体操</li> <li>・パートナーキャッチボール</li> <li>・ホームランタイム</li> </ul> </li> <li>○試しのゲームをする。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="252 741 759 943"> <tr> <td>対戦</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第1コート</td> <td>赤</td> <td>対</td> <td>青</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第2コート</td> <td>紫</td> <td>対</td> <td>オレンジ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第3コート</td> <td>黄</td> <td>対</td> <td>緑</td> <td></td> </tr> </table> <p>○学習カードの書き方や使い方について理解する。</p>	対戦					第1コート	赤	対	青		第2コート	紫	対	オレンジ		第3コート	黄	対	緑		<p>○基本的な動作（投げる、捕る、打つ）を一つ一つ教え、正しい運動の行い方を理解できるように、説明する。</p>  <p>腰を回して投げる</p>  <p>約10m離れ、投げ合う</p> <p>とんくる体操      パートナーキャッチボール</p>      <p>ホームランタイム</p> <p>◇ティーボールのゲームや練習に積極的に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度①】</p> <p>◇場や用具の安全に気を付けている。 【主体的に学習に取り組む態度④】</p>
対戦																						
第1コート	赤	対	青																			
第2コート	紫	対	オレンジ																			
第3コート	黄	対	緑																			
なか①	<p>1 学習の場作りをして、準備運動をする。</p> <p>2 チームごとにつながる運動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とんくる体操</li> <li>・パートナーキャッチボール</li> <li>・ホームランタイム</li> </ul> <p>3 本時のめあてやねらいを確認する。</p> <div data-bbox="416 1570 1241 1630" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;"> <p>簡単なルールでティーボールを楽しむ。</p> </div> <p>【選択させるめあての例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールを強く打つために、大きく振り切る</li> <li>・ボールをよく見て腰を回して打つ</li> <li>・相手の間を狙って打つ</li> <li>・両手を大きく開いて捕る</li> <li>・ボールの正面に入って足を開いて捕る</li> <li>・姿勢を低くして捕る</li> <li>・相手が捕りやすいボールを投げる</li> <li>・フォームを意識して、アウト板に当てる</li> <li>・ボールを捕ったら、遠くからでも上から投げる</li> </ul>	<p>○協力して準備ができるように声をかける。</p> <p>○学習で特に使う部分を意識させながら行うよう声をかける。</p> <p>○投げる方向が定まらなかつたり、捕ることが難しかったりする児童には、短い距離から始めるように助言し、上手な児童のポイントを伝える。</p> <p>○ただ、キャッチボールをするだけでなく、振り向いて投げたり、体重移動を意識しながら行ったりするよう呼びかける。</p> <p>○初めはいくつかのめあての中から選ぶようにし、慣れてから自分でめあてを書くようにする。</p>																				

<p>4 簡単なルールでゲームを楽しむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>【ルール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人数は5、6人      ・得点はベース得点</li> <li>・交替は打者一巡制      ・回数は2回表裏</li> </ul> </div> <p>〈2時間目〉第一試合  青 対 紫  オレンジ 対 黄  緑 対 赤</p> <p>〈2時間目〉第二試合  青 対 オレンジ  紫 対 緑  黄 対 赤</p> <p>〈3時間目〉第一試合  青 対 緑  紫 対 黄  赤 対 オレンジ</p> <p>〈3時間目〉第二試合  青 対 黄  緑 対 オレンジ  赤 対 紫</p> <p>5 体育ノートに今日の振り返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試合結果</li> <li>・めあての振り返り</li> <li>・よりよい試合にするためのポイント (ルールやマナーについて)</li> </ul> <p>6 整理運動をして、後片付けをする。</p>	<p>○マナーをしっかり守り、真剣に応援やアドバイスができているチームを称賛する。</p> <p>○チームでの役割分担や良いプレーが見られたら積極的に称賛する。</p> <p>◇ルールやマナーを守り、仲間と助け合おうとしている。 <b>【主体的に学習に取り組む態度③】</b></p> <p>○ティーを打ってしまう児童には、最後までボールを見て「1・2・3」のリズムで振るように助言する。</p> <p>○打球の正面に入ってボールを捕ることができない児童には、教師が試合中に今来たボールの捕り方を助言する。</p> <p>○うまく守ることができないチームには守備位置について助言する</p> <p>◇ティーボールの行い方を理解している。 <b>【知識及び技能①】</b></p> <p>◇勝敗を受け入れようとしたり、仲間の考えや取組を認めようとしたりしている。 <b>【主体的に学習に取り組む態度③】</b></p> <p>○本時の学習を振り返り、めあてが達成できたか確認する。</p> <p>○技能面、態度面で友達のよいところを見つけられた児童を称賛する。</p> <p>○みんながより公平に楽しめるルールを考えた児童を称賛する。</p> <p>○試合の中でルールなどに不満がある場合には取り上げ、全体で共通理解を図り、今後の学習に生かせるようにする。</p> <p>○協力して後片付けを行うよう声をかける。</p>
<p>な か ②</p> <p>1 学習の場づくりをして、準備運動を行う。</p> <p>2 チームごとにつながる運動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パートナーキャッチボール</li> <li>・ホームランタイム</li> </ul> <p>3 本時のねらいやめあてを確認する。  <b>【選択させるめあての例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールをよく見て、選手の間を狙って打つ</li> <li>・アウト板から遠い位置を狙って打つ</li> <li>・ボールの正面に入って、姿勢を低くして捕る</li> <li>・ボールを捕ったら、すぐに上から投げる</li> <li>・周りの動きを確認しながら、守備位置を決める</li> </ul>	<p>○安全に活動できるような場づくりができるように助言する。</p> <p>○手首や足首、肩、膝など特に使う部位を丁寧にストレッチするよう呼び掛ける。</p> <p>○チームを見て回り、試合に生かせる運動を行えているか確認する。</p> <p>○個人のめあては、打つ、捕る、投げるいずれかのめあてとなっているか確認する。</p>



チームで作戦を立てて、ティーボールを楽しむ。

- 4 ティーボールの試合を楽しむ。  
○チームで攻撃や守備の作戦を考えて試合を行う。

【ルール】

- ・人数は5、6人
- ・得点はベース得点
- ・交替は打者一巡制
- ・回数は2回表裏

- 前時の振り返りが作戦に生かされているか、各チームを見て回りながら確認する。
- 自分や相手のチームの特性を考えて作戦を考えるよう支援する。
- 作戦を意識して動けるよう助言したり、一緒に動いたりする。
- ◇フェアグラウンド内にボールを打ち、進塁や得点をする【知識・技能②】
- ◇捕る、投げるなどのボール操作をして、得点を与えないようにすることができる【知識・技能③】
- ◇相手やチームの特徴に応じた作戦を考えている【思考・判断・表現①】
- ◇攻撃や守備の作戦について、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている【思考・判断・表現②】
- ◇相手チームの特徴に応じた守備の隊形を取ろうとしている【思考・判断・表現③】

- 5 作戦タイムをとる。  
○休憩、給水をしなが、前半の試合の振り返りを行う。  
○後半の試合に向けた作戦についてチームボード等を使って話し合う。

- 前半の作戦がうまくいかなかったチームに教師が加わり、どうすれば得点できるのか、失点を防ぐことができるのかを助言する。
- 話し合いがスムーズに行われているか見回り、適宜助言する。
- スムーズに話し合いが行えていないチームには、教師が話し合いの視点を提供するようにする。
- 作戦や振り返りの反省を生かしているチームを称賛する。
- すぐに改善できそうなティーボール特有の動き（カバーリングなど）は教師が介入し、助言する。
- 個人としての反省だけでなく、チームの作戦にもついても触れるように伝える。
- 相手チームの作戦や守備位置など良かったところもを見つけるよう促す。

- 6 2回目の試合を楽しむ。  
○同じチームと試合を行う。

- 7 チームごとに試合を振り返り、体育ノートに反省や次回に生かせそうなことを記入する。

- 協力して後片付けができるよう助言する。

- 8 整理運動をして、後片付けを行う。

まとめ

- ティーボールの楽しさを味わうことができたか。
- 安全やルール、マナーを守って学習できたか。
- 場や用具の安全に気を配ったりすることができたか。
- 自分のチームの特徴に応じた作戦を立てることができたか。
- 攻撃や守備の作戦を立ててゲームを楽しむことができたか。
- 励まし合いや協力し合い、認め合いの声かけができたか。
- 打つ楽しさや走塁の楽しさ、守る楽しさを味わうことができたか。